

令和元年 7 月 5 日

各 位

会 社 名 株式会社マネーパートナーズグループ
 代表者名 代表取締役社長 奥山 泰全
 (コード番号：8732 東証第一部)
 問合せ先 取締役 C F O 中西 典彦
 (TEL. 03-4540-3804)

2019年6月次 月次概況（速報）のお知らせ

2019年6月次の当社グループの月次概況（連結ベース）を下記のとおりお知らせいたします。なお、営業収益及び外国為替取引預り証拠金は速報値であるため、決算発表時の数値と異なる場合があります。

記

年 月	2019年3月期											
	2018年									2019年		
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
営業収益 (単位：百万円)	536	519	478	439	670	606	476	435	547	460	360	698
外国為替取引高 (単位：百万通貨単位)	91,552	116,599	101,591	92,238	107,310	84,706	118,371	96,598	91,536	133,017	75,614	77,410
外国為替取引口座数 (単位：口座)	315,872	317,341	318,698	319,983	321,275	322,271	323,931	325,232	326,421	327,859	329,061	330,230
外国為替取引預り証拠金 (単位：百万円)	62,379	61,817	63,050	63,736	62,506	62,707	62,428	62,361	63,000	62,097	61,685	62,557
一般顧客	57,653	57,015	57,840	58,372	57,290	57,094	57,455	57,530	57,897	57,128	56,678	57,205
金融法人 (B to B)	4,725	4,802	5,209	5,363	5,216	5,613	4,973	4,831	5,103	4,968	5,006	5,351
マネパカード口座数 (単位：口座)	124,965	129,820	134,553	137,762	139,807	141,535	143,219	144,889	146,856	148,845	150,323	151,621

年 月	2020年3月期											
	2019年									2020年		
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
営業収益 (単位：百万円)	436	430	438									
外国為替取引高 (単位：百万通貨単位)	64,962	85,708	73,679									
外国為替取引口座数 (単位：口座)	331,528	332,653	333,795									
外国為替取引預り証拠金 (単位：百万円)	64,226	63,060	64,426									
一般顧客	57,695	58,098	58,594									
金融法人 (B to B)	6,531	4,961	5,831									
マネパカード口座数 (単位：口座)	152,808	153,899	155,079									

- (注) 1. 外国為替取引高は、顧客との相対取引による通貨毎の取引高を原通貨単位のまま合計したものであり、円換算は行っておりません。
2. 外国為替取引口座数、マネパカード口座数及び外国為替取引預り証拠金は、それぞれ月末時点の口座数及び残高であります。
3. 2011年8月より差金決済取引 (CFD) の取扱いを開始しており、CFDにおける預り証拠金、取引高 (原取引単位を米ドルに換算) 及びこれに伴うトレーディング収益はそれぞれ「外国為替取引預り証拠金」、「外国為替取引高」及び「営業収益」に含めて表示しております。
4. 外国為替取引預り証拠金は、一般顧客からの取引によるものと B to B 取引先である金融法人からの取引によるものを区分して表示しております。

< 6月次の概況 >

6月の外国為替相場は、米ドル／円については、1ドル＝108円台前半で取引が始まり、米国経済指標の弱い結果を受けて米国政策金利の引き下げに対する思惑が台頭する一方、前月末に米政権が発表したメキシコへの追加関税が回避される動きとなるなど米国通商問題に対する懸念が後退する等売り材料・買い材料が交錯し、107円台後半から108円台後半にかけての極めて狭いレンジで相場は推移しました。ところが、19日に開催されたFOMC（米国連邦公開市場委員会）での声明文において今後の利下げが示唆されるとドル売円買の流れとなり、その後のイランによる米国無人偵察機撃墜等米国とイランの対立激化による地政学的リスクの高まりも加わり、25日には月の安値となる106円台後半をつけました。その後、米中貿易戦争休戦の見込みが報じられるなどリスク回避ムードが後退すると値を戻し、107円台後半で月末を迎えました。一方、米ドル／円以外の主要な取扱い通貨である欧州・オセアニア通貨についても、米ドル／円と同様に総じて狭いレンジでの推移となりました。外国為替相場の変動率は、極めて低い水準であった4月並みの水準に戻りました。

このような状況の中、外国為替取引高は、外国為替相場の変動率低下に加え、営業日数が20日と通常の月より少なかったこともあり、前月比14%減少の736億通貨単位となりました。一方、営業収益は、システム関連売上高が前月と比べ増加したこと等から前月比2%増加の438百万円となりました。また、顧客基盤については、外国為替取引口座数は前月比1,142口座増加の333,795口座、マネパカード口座数は前月比1,180口座増加の155,079口座と外国為替相場の低迷を背景に低水準となった一方、外国為替取引預り証拠金は、一般顧客、金融法人とも増加し、前月比1,366百万円増加の64,426百万円となりました。

以 上